

2020 (令和2年) 11/29 日曜日

毎日小学生新聞編集部 郵便 〒100-8051 (住所不要) ファクス 03-3212-2591 電話03-3212-0321 メール maishou@mainichi.co.jp

毎日小学生新聞

MAINICHI

発行所 毎日新聞東京本社 〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1

配達お問い合わせ 購読お申し込み

0120-468-012 (6-21時、一部地域は平日10-18時)

定価 1か月1750円 (本体1620円、消費税130円)・1部70円



みんなの目

中満泉さんから 地球を変えるあなたへ 15



中満泉さんから

◇中満泉さん [国連事務次長] 1963年生まれ。アメリカの大学院を経て89年に国連入り。難民保護や国連平和維持活動、核兵器禁止条約の採択などのために働いてきた。著書に児童書「危機の現場に立つ」など。



すがた ハリスさんの姿

「私は最初の女性副大統領かもしれませんが、最後ではありません。なぜなら全ての少女たちが今夜の光景を見て、この国は可能性の国だと理解するでしょうから」

アメリカ初の女性副大統領、初の黒人副大統領になるカマラ・ハリスさんが11月7日、大統領選挙後の勝利宣言演説でこう述べました。私の2人の娘もそうですが、演説を見ていた若い女性たちの中に

未来のための闘い

は、大きな希望を感じた人が多かったと思います。ハリスさんは「ガラスの天井」(さまざまな差別によって、女性の昇進には目に見えない天井がある、という例え)を打ち破ったので

注目したのは、アメリカ公民権運動(アフリカ系アメリカ人への差別をなくそうという、1960年代の運動)の指導者、ジョン・ルイス下院議員の言葉「民主主義は状態ではなく行動であるを引用したことです。民主主義は制度によって自動的に保障されているものではなく、皆でそれを守るために闘わなければならないということ。ハリスさんは、その闘いに参加する市民がいてこそ、より良い未来をつくれると強調

しました。新型コロナウイルスの流行で、2020年は世界にもアメリカにも本当に困難な年になりました。しかし考えてみれば、アメリカの苦難はしばらく前に始まっていました。

求めて海外に工場などを移しました。その結果、アメリカでは失業が増え、多くの人が生活に困ることになりました。技術革新によるIT産業の発展や、金融市場の活性化などは恩恵をもたらす一方、格差を広げ、恩恵から取り残されたと感じる人々が増えていたので、そうした人々は怒りも感じています。経済や教育の格差、都市と地方の格差、人種差別や宗教による対立などが絡み合い、偏見と怒りを生んで、アメ

世界を変えなければならぬということ。対立ではなく、結束と団結で課題に取り組みべきだということです。世界の歴史を振り返れば、大きな不正への怒りが社会のうねりとなり、暴力を伴う革命のような社会変革につながったことが幾度ありました。コロナ禍によって世界が歴史上の分かれ道にある今、お互いに歩み寄り、理解と思いやりを持って変革を進める、もしかすると最後のチャンスが来ているのかもしれないと、私は思っています。

しめん きょうの紙面

列車によう! 乗ろう! 寛の鉄道全線完乗 きのさき号 8面

こどもしんぶん 3面

ちそう(じめん) お野菜道場 4・5面 春菊 あなたのSDGs 7面 飢餓をゼロに

声をかけ、対話を ともすれば絶望しそうな状況ですが、私が伝えたいのは、私たちは悪意や怒りのエネルギーによってではなく、善意と希望と理想をエネルギーとして

私の「希望」は何かって? みなさんです。世界の出来事に興味をもち、自分に何ができるかを考えてくれるみなさん。身の回りのおかしいと思うことに声を上げることが、ハリスさんのいう「より良い未来をつくるための闘い」に参加することです。女性の活躍の機会では、日本は「ガラスの天井」どころか「鋼鉄の天井」があるように見えますが、鉄をも溶かす熱い情熱で取り組みましょう。困っている人に声をかけてみましょう。反対意見の人とこそ対話をして、理解するよう努力し、どうすれば歩み寄れるのかを考えてみましょう。きっと大丈夫、と私は希望を持っています。